
磁竜の滅竜魔導師

JUMP UP !

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

磁竜の滅竜魔導師

【Nコード】

N2883BA

【作者名】

JUMP UP!

【あらすじ】

ワンピースのユースタス・キッドが海賊ではなくもしフェアリーテイルの滅竜魔導師だったらというはなしです

プロローグ（前書き）

どうもJUMP UP！です、前々から書いてみたいと思っていた作品ですどうぞ楽しんでみてください

それではどうぞ！

プロローグ

ここはマグノリア駅の車内の中

「ちょっと、ナツ大丈夫？」

「うっっ・・・むり・・・うっ・・・もう・・・ダメ・・・」

乗り物酔いで気持ち悪くなっている桜色の髪の少年ナツ

「もお、だから付いてこなくていいって言ったのに、なんでついて来んの？」

呆れたように問いかける金髪のロング少女ルーシィ

「あい！それがナツです」

陽気な青いしゃべる猫のハッピー

今、彼たちはルーシィの買い物帰りの電車の中だったとその時電車のドアがドン！という騒音とともに一人の銃を持った男が車内に入り込んできた。後ろにはもう三人ほど銃をもった男がいる、さっきまで普通に乘っていた客もこの状態に驚いたのか一気にざわめきだした。するとバンッ！という鈍い音が車内に響き渡った。一人の男が天井に向け発砲したのだ

男A「この電車はわれわれがハイジャックした！」

男B「お前たちには人質になってもらうぞ！」

男C「少しでも抵抗したりしたらすぐに撃ち殺す」

男D「わかったら大人しくしろ」

男たちそう言い放つと乗客たちは一斉に静まりかえった

「ちょっとナツ、なんとかしてよ！」

「うっっ・・・うえ・・・だめ・・・ちからが・・・でねえ」

「もおっしっかりしてよ！」

「ルーシィ、オイラたちどうなっちゃうの？」

「私だって分かんないわよ！」

男B「おい！お前ら何騒いでんだ！ほんとに撃つぞ！」

「「ひいっ！」」

ルーシイたちがターゲットにされたそのときだった

「おい」

後ろのほうから声がした、そこには赤髪の男が立っていた。その後ろには群青色をした二足歩行の猫もいた

男B「あぁん？なんだお前殺されてーのか？」

と、男Bが銃を突き付けたが、赤髪の男は全く動じなかった

「おめえらさつきからうつせえんだよ、せっかく寝てたのに目エ覚めちまったじゃねエか、てめえただで済むと思うなよ！」

と赤髪の男は男Bに怒鳴りかけた

「ちよつと！あんまり挑発しないでよ・・・」

とルーシイが震えた声で赤髪の男に言った

男B「てめえ調子のもてんじゃねえぞ！」

と再度銃を突き付けようとしたが、男Bの銃が宙に浮かんだ、他の男たちが持っていた銃も宙に浮かんだ

男A「・・・え？」

男B「どうなってんだ？」

男C「なんで勝手に？」

男D「・・・？」

と、男たちは不思議そうに宙に浮かぶ銃を見つめていた

「ちよつと！ちよつと！なにがおきてるわけ？」

「あい？」

「ううう・・・」

と、ルーシイたちもビックリしながら銃を見つめていた

するとその銃はきれいな放物線をえがいて赤髪の男の手に収まった

「おめえら、覚悟できてんだろうなあ」

と、赤髪の男が鬼のような形相で男たちを睨みつけた

「「「ヒィィ！！」「」「」」

男たちは驚きながら逃げようとした、その時

リベル
「反発」

赤髪の男がそうつぶやいたと思うと手に持っていた銃がものすごい勢いで彼の手を離れ男たちの背中に思いっきり当たった

「「「「ヴッ!」」」」

と、男たちは声をあげその場に倒れこんだ

「「すごい」」

ルーシィとハッピーは声をそろえてビックリしていた

「雑魚がいきがってんじゃねえよ、ムナクソわりいやつらだぜ」

「キッドゥやりすぎだよ」

「いいんだよこれくらいやるときゃ、いくぞテララ」

「テラ!」

そうして、群青色の猫と赤髪の男は去って行った

「誰なんだろうね?ルーシィ」

「さあ、ただ、タダものじゃないってことは確かね。」

「もしかして魔導師かな?」

「うん、多分そうだと思う」

「あと、しゃべる猫もいたよ、びっくりしたね」

「あんたがいうのはどうかと・・・」

「うっつぶ・・・?」

その後、電車をハイジャックしようとした男たちは駅のホームの警備員たちにより取り押さえられた。

プロローグ（後書き）

ひとまずはこんな感じですよ話的にはウエンディ達が入りたてくらいの話です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2883ba/>

磁竜の滅竜魔導師

2012年1月7日15時04分発行